

工業系高校に専攻科・・・県検討委

2015年11月26日

◆ 知事公約の「高専」に否定的

山梨県の基幹産業である機械・電子産業の発展を目指し、有識者が人材育成について話し合う県の検討委員会が25日、甲府市内で開かれた。県側は、既存の工業系高校に2年の専攻科を新設する案を示し、委員の多くも賛同。後藤知事が公約に掲げた高専の設置は、人材の輩出に時間がかかり過ぎるなど否定的な意見が出ており、年明けの最終会合でとりまとめられる報告書の内容が注目される。

これまでの検討委では、県の需要調査の結果などから「現状、育成機関のない製造技術を担う人材」を育成する新たな機関が必要だとする意見で一致。ただ、他県の事例を元に比較したところ、高専は人材輩出までに最短でも9年かかり、施設整備などで70～80億円かかるのに対し、工業系高校に専攻科を新設する場合は最短で6年、コストも約16億円に抑えられるとされた。

この日示された報告書の骨子案では、工業系高校の専攻科の新設、大学生の県内就職の推進、定員に満たない状況が続く産業技術短期大学校の定員の充足が掲げられ、委員からは「約10年かかる高専設置では、時代のニーズに合った人材を育成している間に時代が変化してしまう」など、専攻科新設に賛同する意見が多く出た。

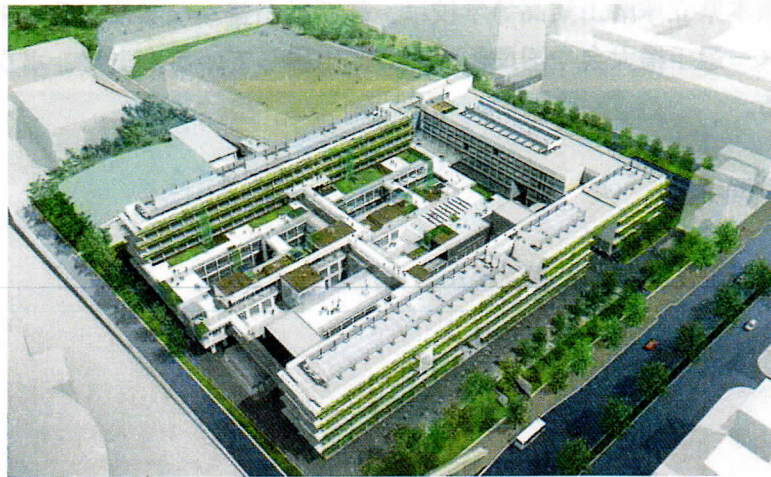
検討委の委員長を務める清水一彦・県立大学長は「県内に不足している人材を早く育成するために、スピード感が必要だ。新たな制度の設計に向けてしっかり検討していきたい」と述べた。

2015年11月26日 Copyright © The Yomiuri Shimibun

※読売新聞社 HPより引用。

開校経緯

平成18年2月の愛知県産業教育審議会答申には、「基礎基本の確実な定着を図るとともに、ものづくりに関する実践的な技術・技能の習得のために、より体験を重視した教育」の推進の必要性が明示され、また、本県の「新しい政策の指針」においても、「工業高校の機能」を検討し、「専攻科の設置も視野に入れたより実践的なものづくり教育を行う総合技術高等学校の設置」が提起された。



こうした状況を踏まえ、県教育委員会では平成19年11月、少子高齢化社会の進展による生徒数の減少や昨今の厳しい財政状況を踏まえ、既設校の再編整備を進めることとして、愛知工業高校と東山工業高校の2校を1校に統合し、本校を設置する計画を発表した。この発表を受け、平成20年1月に愛知県経営者協会、愛知県中小企業団体中央会から本校の設置に関する要望書が提出された。

以上の経緯により、企業や大学等と連携しつつ特定分野の専門的な教育を継続して行い、より実践的なものづくり教育を推進することにより、本県のものづくりの発展に必要な人材、産業基盤を支える高度熟練技術者・技能者を育成することを目的とした、本県工業教育の中核校となる愛知総合工科高等学校を設置することとなった。

本科（3年）

「機械系」、「電気系」、「建設系」、「化学系」、「デザイン系」の5系列、計10クラスを一括募集し、最新の設備による専門的技術・技能の習得、高度資格の取得、企業と連携した実習の推進により、産業界の求める技術者・技能者を育成。

専攻科（2年）

県内初の機械・電気系の学科をもつ2年制課程の専攻科。専攻科は、原則として高等学校工業科の卒業生を対象としており、専攻科においては、工業に関する知識や技術・技能を深化、高度化、熟練化することにより、本県の産業基盤を支える高度な技術・技能を習得するとともに、より難度の高い資格（複数の技能士等）の取得に務め、デュアルシステム（比較的長期間の企業実習）を行って、即戦力となる人材を育成。

- ・産業システム科：生産システムコース（10名） ・情報システムコース（10名）
- ・先端技術システム科：自動車・航空産業コース（10名） ・エネルギー産業コース（10名）

※愛知県HPより引用。

熊本県立球磨工業高等学校は、部活動が盛んな学校でその中でもカヌーが有名で、全国高等学校カヌー選手権大会や国民体育大会に出場している。また、ボウリングでも国民体育大会に出場している。

設置学科

以下の4学科、1専攻科から構成されている。

- 本科
 - 機械科
 - 電気科
 - 建築科
 - 建設工学科（旧土木科）
- 専攻科
 - 伝統建築専攻科

1クラスあたりの定員は40名。1996年までの卒業生は約7,000人。建築科には建築コースと伝統建築コースがある。また、高校課程の上位課程として、伝統建築専攻科（修業年数2年）がある。この伝統建築コース（および後に新設された同専攻科）は、「公立高校で大工職人を育てる」初の試みとして注目を集めた。大工の棟梁や宮大工を育てることが、このコース設立以来の目標となっている。

沿革

- 1963年4月1日 - 開校。

1962年、熊本県教育委員会で産業教育振興と高校急増対策の一環として、人吉・球磨地区に工業系高等学校の新設を決定。

開校時の設置学科は、機械科（2学級）、電気科（2学級）及び建築科（1学級）。

- 1964年 - 開校
- 1970年 - 土木科（1学級）を新設。
- 1989年 - 建築科を学科内改編。建築コースと伝統建築コースに変更。
- 1996年 - 土木科を建設工学科に改編。
- 2004年 - 伝統建築専攻科（1学級）を新設。電気科を1学級減。

伝統建築専攻科

本科は、平成16年4月に本校建築科伝統建築コースの15年間にわたる地域に密着した数々の実績を踏まえ、日本古来の伝統建築技術者や文化財保護のスペシャリストを目指す者に、『本物にふれさせ、本物の技術を学ばせる』ため、高校卒業後の2年間で伝統建築技術・知識を習得させる全国で唯一の伝統建築専攻科として設立されました。

人吉球磨地区は、国宝「青井阿蘇神社」をはじめ中世を含む多数の文化財建造物が点在しており、地域にある文化財の修復や祠などの製作には高度な匠の技を必要とします。本科は、課題研究の授業の中でこの文化財の修復や祠などの製作をすることによって、『地域に密着した様々な取り組みを行い多くの成果を収めています。』

目指す教育

・本物を作る実践教育

地域の協力を得て、文化財級の本物の解体修理実習を行うことで、より実践的な技を身につけ、日本の伝統建築の良さ、木の良さを語るエキスパートを育成する

本校伝統建築コースの生徒にとっては、5年間のスパンで専門性の高い技術・技能を習得

他校卒業生については、1年前期に伝統建築技能の基礎実習を習得

・少人数によるきめの細かい教育

少人数教育による技能検定・資格検定の取得、匠としての技術指導を徹底する

・一流の講師による特別授業の実施

本科伝統建築コースと同様、日本を代表する一流講師を大学・企業などから招へいして特別授業を実施し、伝統建築や日本文化の神髄を学ぶ

・一流の職人としての人格の形成

大工技能の習得だけでなく、ものを大切にする心、仕事に取り組む真摯な姿勢、職人としての高い人格の形成を目指す

教育課程

科目	標準単位	1年	2年	計
木工作基礎	2～6	6	0	6
課題研究	2～18	6	12	18
絵様彫刻	2～4	2	2	4
日本建築計画	2～10	3	3	6
日本建築実習	2～12	4	4	8
日本建築設計製図	2～8	3	3	6
文化財建造物実習	2～12	6	6	12
合計		30	30	60

※球磨工業高校HPより抜粋

伝統建築専攻科

本科は、平成16年4月に本校建築科伝統建築コースの15年間にわたる地域に密着した数々の実績を踏まえ、日本古来の伝統建築技術者や文化財保護のスペシャリストを目指す者に、『本物にふれさせ、本物の技術を学ばせる』ため、高校卒業後の2年間で伝統建築技術・知識を習得させる全国で唯一の伝統建築専攻科として設立されました。

人吉球磨地区は、国宝「青井阿蘇神社」をはじめ中世を含む多数の文化財建造物が点在しており、地域にある文化財の修復や祠などの製作には高度な匠の技を必要とします。本科は、課題研究の授業の中でこの文化財の修復や祠などの製作をすることによって、『地域に密着した様々な取り組みを行い多くの成果を収めています。』

目指す教育

・本物を作る実践教育

地域の協力を得て、文化財級の本物の解体修理実習を行うことで、より実践的な技を身につけ、日本の伝統建築の良さ、木の良さを語るエキスパートを育成する

本校伝統建築コースの生徒にとっては、5年間のスパンで専門性の高い技術・技能を習得

他校卒業生については、1年前期に伝統建築技能の基礎実習を習得

・少人数によるきめの細かい教育

少人数教育による技能検定・資格検定の取得、匠としての技術指導を徹底する

・一流の講師による特別授業の実施

本科伝統建築コースと同様、日本を代表する一流講師を大学・企業などから招へいして特別授業を実施し、伝統建築や日本文化の神髄を学ぶ

・一流の職人としての人格の形成

大工技能の習得だけでなく、ものを大切にする心、仕事に取り組む真摯な姿勢、職人としての高い人格の形成を目指す

教育課程

科目	標準単位	1年	2年	計
木工作基礎	2～6	6	0	6
課題研究	2～18	6	12	18
絵様彫刻	2～4	2	2	4
日本建築計画	2～10	3	3	6
日本建築実習	2～12	4	4	8
日本建築設計製図	2～8	3	3	6
文化財建造物実習	2～12	6	6	12
合計		30	30	60

※球磨工業高校HPより抜粋